

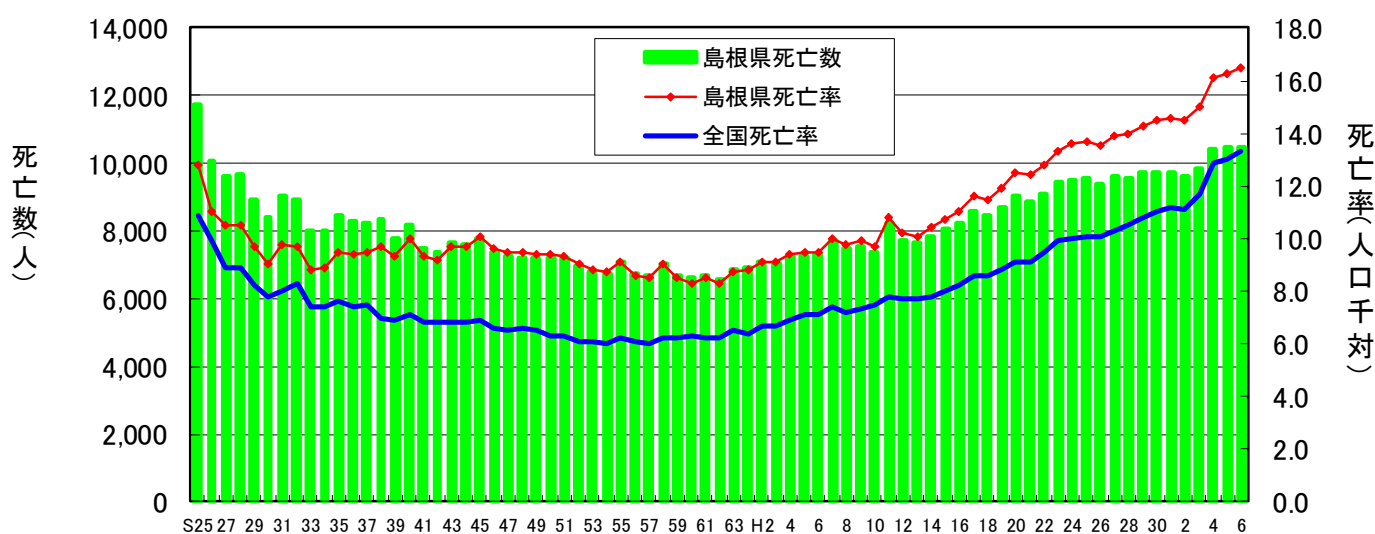
3 死亡

(1) 死亡数・死亡率

令和6年の死亡数は10,440人で、前年の10,461人より21人減少し、死亡率（人口千対）は16.5で、前年の16.3から0.2増加した。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和30年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和63年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている（図4）。

図4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率（人口10万対）をみると、10～24歳、30～34歳、40～54歳、75歳以上の各階級が前年より増加し、0～9歳、25～29歳、35～39歳、55～74歳の各階級が前年より減少した。75～79歳の階級の増加が最も大きい。

死亡率性比（男性の死亡率／女性の死亡率×100）を年齢階級別にみると、0～4歳及び15歳以上の各階級において100以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している（表4）。

表 4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	令和6年	令和5年	対前年増減	令和6年	令和5年	対前年増減	
総数	10,440	10,461	△ 21	1,654.5	1,634.5	20.0	97.0
0～4	5	13	△ 8	23.8	59.1	△ 35.3	150.0
5～9	4	6	△ 2	15.4	23.1	△ 7.7	92.3
10～14	3	2	1	10.7	7.1	3.6	50.0
15～19	12	4	8	41.4	13.8	27.6	280.0
20～24	11	6	5	45.8	25.0	20.8	846.2
25～29	4	10	△ 6	17.4	41.7	△ 24.3	275.0
30～34	17	13	4	65.4	48.1	17.3	222.9
35～39	13	16	△ 3	41.9	50.0	△ 8.1	109.4
40～44	33	21	12	91.7	56.8	34.9	113.3
45～49	55	48	7	131.0	111.6	19.4	136.4
50～54	99	86	13	225.0	204.8	20.2	209.4
55～59	118	145	△ 27	310.5	391.9	△ 81.4	247.1
60～64	211	228	△ 17	527.5	556.1	△ 28.6	263.8
65～69	338	382	△ 44	768.2	848.9	△ 80.7	238.0
70～74	739	838	△ 99	1,449.0	1,551.9	△ 102.9	245.3
75～79	1,102	969	133	2,344.7	2,202.3	142.4	231.3
80～	7,676	7,674	2	9,138.1	9,135.7	2.4	127.4

注 1）死亡率性比＝男性の死亡率／女性の死亡率×100

（2）死因

①死因順位

令和6年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,369人（人口10万対死亡率375.4）、第2位は老衰で1,444人（228.8）、第3位は心疾患で1,318人（208.9）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいに推移し、平成19年以降は上昇傾向にある。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移していたが、近年下降傾向にある（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県別に比較した場合、本県は、誤嚥性肺炎（全国第2位）、血管性及び詳細不明の認知症（全国第3位）、アルツハイマー病（全国第5位）の死亡率が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

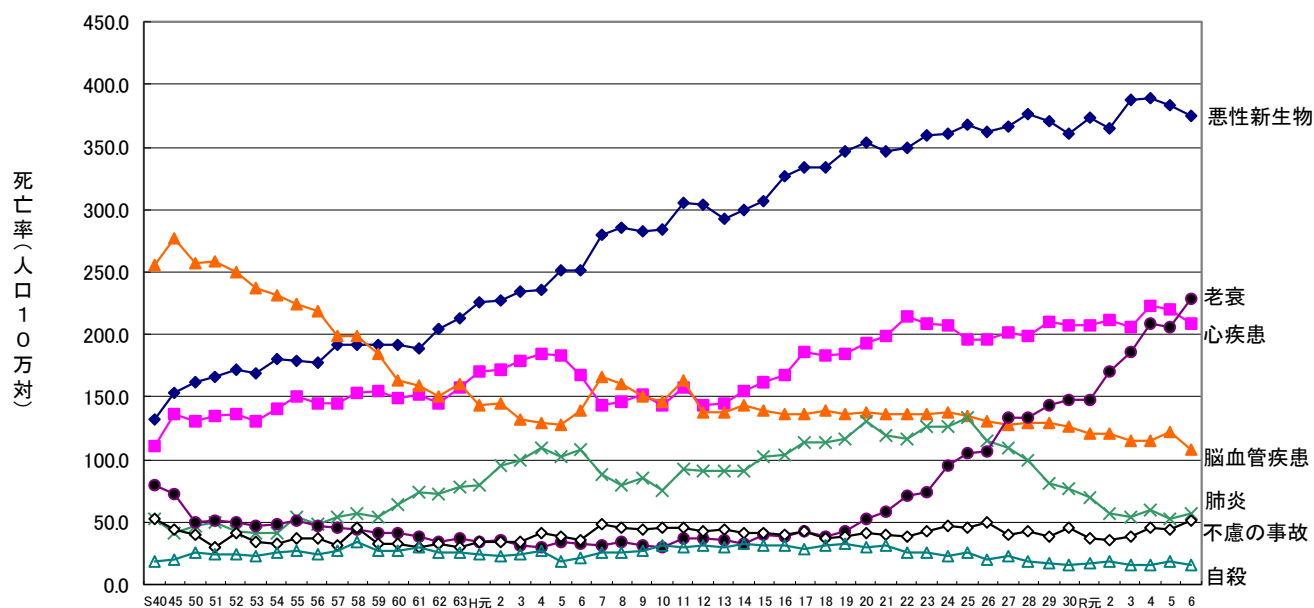


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	令和6年									令和5年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物＜腫瘍＞	1	2,369	375.4	1	1,316	430.1	2	1,053	324.0	1	2,454	383.4
老 衰	2	1,444	228.8	3	375	122.5	1	1,069	328.9	3	1,314	205.3
心疾患（高血圧性を除く）	3	1,318	208.9	2	560	183.0	3	758	233.2	2	1,405	219.5
脳血管疾患	4	681	107.9	4	325	106.2	4	356	109.5	4	780	121.9
誤嚥性肺炎	5	498	78.9	5	279	91.2	5	219	67.4	5	444	69.4
肺炎	6	359	56.9	6	187	61.1	7	172	52.9	6	335	52.3
不慮の事故	7	320	50.7	7	184	60.1	9	136	41.8	7	285	44.5
アルツハイマー病	8	262	41.5	12	82	26.8	6	180	55.4	8	246	38.4
血管性及び詳細不明の認知症	9	237	37.6	11	87	28.4	8	150	46.2	10	237	37.0
腎 不 全	10	223	35.3	9	110	35.9	10	113	34.8	11	199	31.1

注1）令和5年は確定数

- 2）男性の8位は「新型コロナウイルス感染症」で死亡数121 死亡率39.5。10位は「間質性肺疾患」で死亡数98 死亡率32.0である。
- 3）令和5年の9位は「新型コロナウイルス感染症」で死亡数240 死亡率37.5。
- 4）「新型コロナウイルス感染症」は令和6年から追加した死因であるが、本表の令和5年の死因順位は遡及しているため、過去に公表した令和5年の死因順位とは異なる。

②年齢別死因

令和6年の死因を性・年齢（5歳階級）別構成割合から見ると、死因順位第1位の悪性新生物の占める割合は、男性は概ね30代から増加し、70～74歳がピークとなっている。女性は、25～29歳の割合が最も高いものの、概ね30代から増加し、35～49歳、55～69歳では5割以上を占めている。また、自殺の占める割合は、男性が25～29歳、女性においては20～24歳が高くなっている。（図6）。

図6－1 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

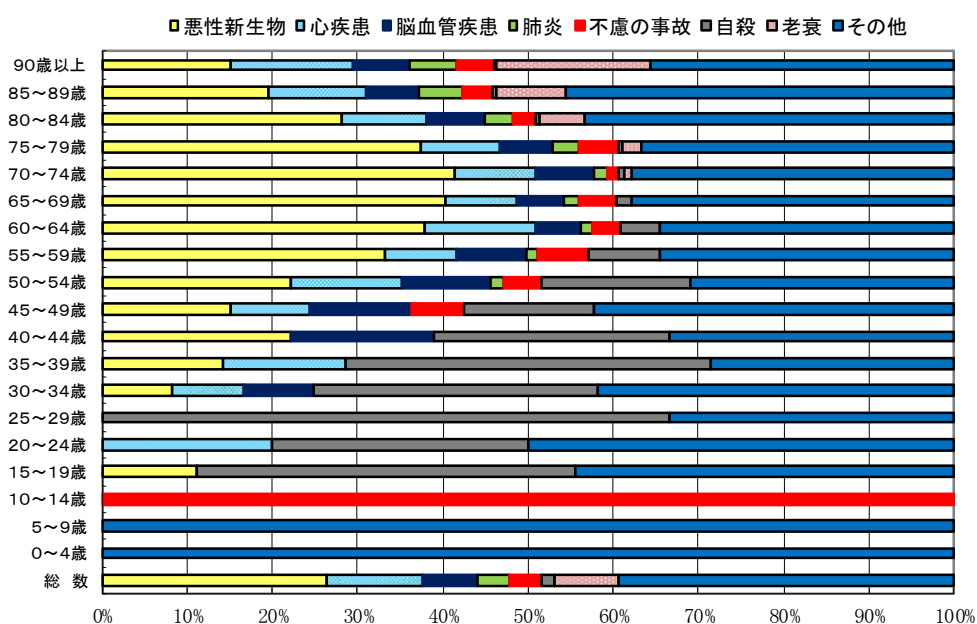
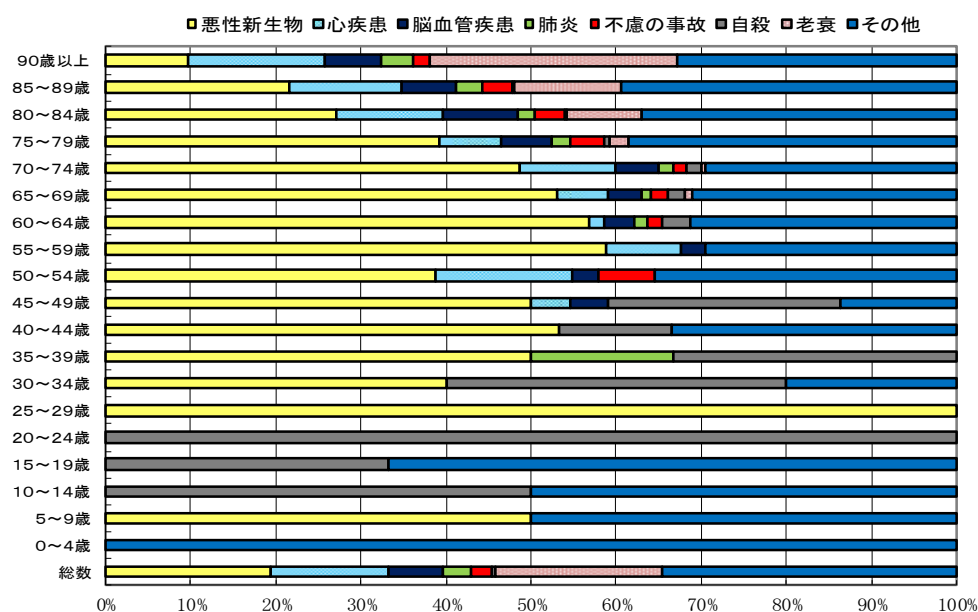


図6－2 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率（人口 10 万対）を主な部位別に見ると、男性では膵が上昇し、令和 6 年の死亡数は 141 人、死亡率は 46.1 となっている。女性では胃が上昇し、令和 6 年の死亡数は 100 人、死亡率は 30.8 となっている。また、肺は死亡数が 136 人で前年と同一であるが、死亡率は 41.8 で上昇している(表 6、図 7)。

表 6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口 10 万対）の年次推移

死亡数																							
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3	4	5	6
男性	胃	250	314	293	273	263	267	230	227	242	230	218	237	216	208	207	197	176	164	191	189	155	142
	肺	19	61	82	169	250	299	363	301	352	305	347	336	363	319	305	328	361	308	359	358	330	291
	肝	54	55	65	121	206	208	191	173	155	159	143	159	137	141	122	115	129	133	113	102	118	102
	膵	8	23	26	54	84	92	89	113	100	101	114	119	119	137	118	107	112	104	128	122	117	141
	大腸	23	42	48	79	151	163	164	168	177	192	157	175	171	178	158	148	174	142	168	183	188	147
女性	胃	165	179	202	149	159	137	152	137	137	146	149	134	116	109	130	115	122	111	118	142	94	100
	肺	8	18	32	52	109	98	107	123	101	137	112	126	118	128	139	129	124	134	118	127	136	136
	肝	37	33	35	55	89	99	90	88	85	84	103	80	76	90	88	64	57	74	57	55	58	50
	膵	6	17	24	40	68	89	92	99	128	96	101	92	115	133	121	117	132	127	155	134	148	141
	乳房	18	16	25	28	38	43	54	65	56	62	63	67	72	78	55	73	87	59	71	57	71	60
	子宮	93	71	57	40	38	25	21	36	30	30	34	35	29	26	33	38	35	27	31	50	36	32
	大腸	30	44	48	85	123	125	150	140	154	153	165	150	160	159	177	173	169	164	173	168	179	174
死亡率																							
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3	4	5	6
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	66.5	71.4	68.2	65.3	71.4	65.3	63.2	63.5	60.8	54.8	51.3	60.3	60.2	50.0	46.4
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	88.2	103.8	90.5	103.9	101.2	109.7	97.0	93.6	101.2	112.5	96.3	113.2	114.0	106.5	95.1
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	50.7	45.7	47.2	42.8	47.9	41.4	42.9	37.4	35.5	40.2	41.6	35.6	32.5	38.1	33.3
	膵	1.8	5.8	7.1	14.2	22.9	25.4	25.2	33.1	29.5	30.0	34.1	35.8	36.0	41.6	36.2	33.0	34.9	32.5	40.4	38.9	37.7	46.1
	大腸	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	49.2	52.2	57.0	47.0	52.7	51.7	54.1	48.5	45.7	54.2	44.4	53.0	58.3	60.6	48.0
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	36.9	37.1	39.9	41.0	37.2	32.4	30.7	37.0	33.0	35.5	32.4	34.9	42.5	28.5	30.8
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	33.1	27.4	37.4	30.9	35.0	32.9	36.1	39.6	37.1	36.0	39.2	34.9	38.0	41.2	41.8
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	23.7	23.0	23.0	28.4	22.2	21.2	25.4	25.1	18.4	16.6	21.6	16.9	16.5	17.6	15.4
	膵	1.3	4.0	6.0	9.6	17.0	22.5	23.8	26.7	34.7	26.2	27.8	25.6	32.1	37.5	34.5	33.6	38.4	37.1	45.9	40.1	44.8	43.4
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	17.5	15.2	16.9	17.4	18.6	20.1	22.0	15.7	21.0	25.3	17.2	21.0	17.1	21.5	18.5
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	9.7	8.1	8.2	9.4	9.7	8.1	7.3	9.4	10.9	10.2	7.9	9.2	15.0	10.9	9.8
	大腸	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	37.7	41.7	41.8	45.5	41.7	44.7	44.8	50.4	49.7	49.1	47.9	51.2	50.3	54.2	53.5

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸を示す。
ただし、昭和 40 年は十二指腸と小腸を含み、昭和 50 年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

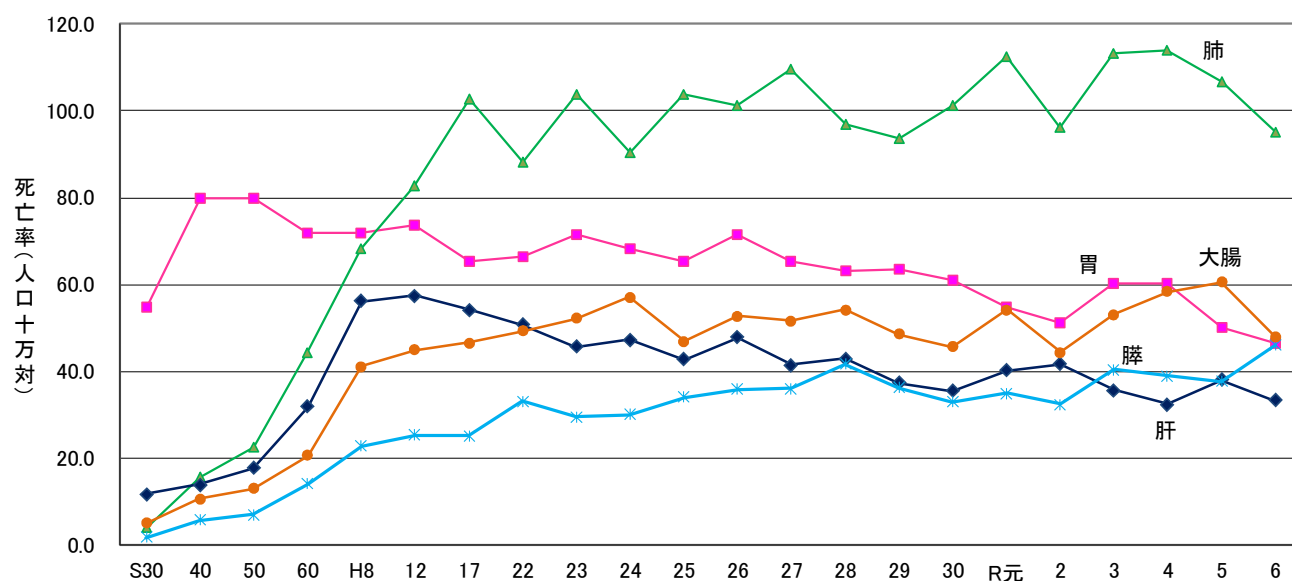


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）

